

<CIEC 第 69 回研究会報告>

テーマ ITS による人にやさしい社会の実現

日 時 2007 年 9 月 29 日 (土) 13:00-17:00

会 場 トヨタ博物館小ホール

参加者 20 名

司 会 大岩幸太郎 (大分大学)

内 容 講演 「ITS による人にやさしい社会の実現」
辻 紘良 氏 (愛知淑徳大学 現代社会学部教授)

講演 「トヨタ博物館の概要と企画展」
西川 稔 氏 (トヨタ博物館学芸員)

見学 西川氏の案内によるトヨタ博物館見学

本研究会は、研究委員会 (旧カンファレンス委員会) の企画によるもので、地方での開催を試みた。

最初に、情報通信技術を活用することにより、安全で快適かつ円滑な交通を実現するためのシステムである ITS (高度道路交通システム) の現状と将来、活用事例をまじえたご講演を愛知淑徳大学現代社会学部教授 辻 紘良氏からいただいた。世界の中でも急速に高齢化社会に突入する日本では、高齢者という一般的には身体能力の弱くなった人が増加することが予想される。そこで、「人」「道路」「車両」を情報通信技術によって有機的に連携することにより、

- ・安全性の向上
- ・交通の遠隔化
- ・快適性の飛躍的向上
- ・輸送効率の改善
- ・環境保全
- ・産業の創出

をはかることが可能となり「人にやさしい社会」が構築される。我が国の IT 施策の重点項目の一つとして「世界一安全な道路交通社会」が掲げられ、その実現に向けた手段として ITS の活用がうたわれている。すでに全国各地で先進的な取り組みがなされており、例えば、東京都「東京ユビキタス計画」、堺市「堺市自律移動支援プロジェクト」、熊本県「くまもと安心移動ナビ・プロジェクト」、静岡県「静岡おもいやりナビ実証実験」などについて報告いただいた。今後も ITS にはさまざまな可能性が期待されており、実験段階である走行中のクルマのワイパーの動きによる天候情報の収集と配信、車椅子のナビシステムなど実用化に向け開発中である。

次に本研究会の会場となったトヨタ博物館の学芸員である西川稔氏より、トヨタ博物館の概要と博物館の新たなスタイルとも言えるミュージアムシアターとしての運営、またご自身の論文「流行歌・歌謡曲に登場するクルマの研究」についてもご講演いただいた。トヨタ博物館は09年4月で開館20周年を向えようとしており、来館者数は最大で年間約37万人、平均24万人の規模で運営されている。来館者を増やすための方策の一つとして欧米で10年ほど前から見られる、演劇の手法を取り入れた展示・解説であるミュージアムシアターを2006年4月に試行した。地元大学生の演劇サークルなどの協力もあり、毎回50名以上の参加者があり手ごたえを感じているそうである。

館内は日本のモータリゼーションの歴史とその時々の人々の生活文化を重ね合わせて伝えることに主眼を置いた工夫にあふれた展示がされていた。約120台にもおよぶ車は、自社の車両に限らずクルマ文化の伝承のために体系的に配置されており、世界にほこる日本の物づくり技術の結晶が数多く展示されていた。

今回の研究会から、今後ますます進展する情報化社会にあって、われわれの生活をサポートする新しい情報技術の可能性を探ることができた。

(文責 酪農学園大学 森 夏節)